

令和6年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要 多角化経営部門

農外から新規参入し「サラリーマン農業」を目指す

○氏名又は名称 株式会社 かまくらや（代表 藤本 孝介）

○所 在 地 長野県松本市

○出 品 財 経営（そば、加工用トマトほか）

○受賞理由

・地域の概要

松本市は、長野県の中央部に位置し、日本の屋根と呼ばれる北アルプスと美ヶ原公園に囲まれた盆地で、多様で豊かな自然や風土と、大消費地に比較的近い立地を活かした農業が展開されている。水田地帯では、豊かな用水を活用し、水稻とともに、麦・大豆等が生産され、大規模な農業法人・集落営農組織も育っている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

株式会社かまくらやは、自動車販売業を営む前代表が「リーマンショック」で売れない時に、信州そばの原料ニーズに対応するため、平成21年に農業へ新規参入した。耕作放棄地を開墾・再生し、積極的に機械化・IoT化による経営を進めている。

・受賞者の特色

（1）そば二期作への挑戦と6次産業化

長野県では、米の裏作の秋そば一作が主流であるが、かまくらやは、そば生産を中心とした経営を確立するため、夏・秋二期作により、収量アップと規模拡大を図ってきた。現在では100haを超える圃場でそばの二期作を実現し、長野県最大生産量の農業者となっている。また創業当初から6次産業化に取り組み、そばの製粉施設やかりんとう工房を設置し、観光客に提供する飲食施設も開設した。

（2）地元からの採用と会社全体で作る経営指針書

地元の農業高校卒業者等を積極的に雇用し、定着のため、他産業と同じ雇用環境づくりをしている。また毎年、経営指針書を社員全員で作り発表会を行い、途中でも進捗を確認しPDCAサイクルを回して改善しながら目標達成を目指している。

（3）農福連携の推進

障害者の安定した雇用の確保と定着を目指して、令和2年に子会社として就労継続支援A型事業所を設立し、かまくらやの作業受託を中心に、畦畔除草、収穫作業、カット野菜加工等の業務で賃金を支払い、自立につなげている。

・普及性と今後の発展方向

令和5年に社員から2代目の社長が就任した。経営理念を継承した社員から社員につなぎ、今後もさらに改善を図って、安心して定年まで勤められる「サラリーマン農業」を実現する会社として、農業で地域の雇用創出に努める。また、経営の多角化と多品目化によりリスク分散をしながら強じんな経営への転換も進めていく。